

「教科書無償運動より学ぶ」 (対象：小学校高学年～中学校)

1 授業のねらい

<知的理解に関して>

憲法に保障された「教育を受ける権利 (第 26 条)」について知り、「教科書をタダに」という要求の正しさについて理解できる。

<人権感覚に関して>

「教科書をタダにする会」の母親たちが、教科書を子どもに与えたいという強い願いを持っていたことと、自分たちの運動が正しいことを信じて闘ってきたことを理解できる

2 教材について (教師が知っておくべきこと)

教科書・教育費無償の闘いは戦前からあり、戦後は各地で多様にすすめられたが、歴史的で決定的な闘いは、1961 年から始まる高知県長浜地区の教科書無償闘争である。部落の親たちが校区の教職員との学習会で、部落問題や憲法についての学習を積んでいったことから、憲法に保障された「法の下での平等 (第 14 条)」「基本的人権の尊重 (第 11 条)」「教育を受ける権利 (第 26 条)」を自分たちのものにするために行動したものである。この闘いは、部落の人たちをはじめ、貧しい人たちの熱い要求がこめられていた。闘いは市から国へと広がり、国会でも大きな問題としてとりあげられ、文部省は 1963 (昭和 38) 年 12 月に『義務教育書学校の教科用図書の無償措置に関する法律』を成立させた。64 年から順次枠を広げ、69 年に小・中学校が無償となった。

戦後の同和教育の最大の課題は長欠及び不就学であった。「義務教育は無償」という日本国憲法のもとでも教科書は有償であり、近代日本の資本主義の発展の中で、常に底辺の労働を強いられてきた部落の親たちにとって大きな負担となっていた。

部落解放実現のためには働く場の確保とともに教育の場の保障が重要である。1872 年の学制発布以後、小学校の就学は義務づけられていたが、経済的条件において除外され続けてきたのである。

この教科書無償の闘いは、義務教育の受益者負担主義を否定する第一歩を刻んだとともに、部落解放がすべての国民の利益につながり、日本の人権を高め「平和憲法」の擁護に貢献するという課題を実践的に示したものといえる。

3 教材のあらすじ

～教科書無償運動の流れ～

高知市長浜の原

仕事らしい仕事がない 「失業対策事業」に出で働く
母親たちは毎年3月を迎えるのがつらい
子どものために教科書を用意してあげられなかったから

○教科書代は小学校で約 700 円
中学校で 1200 円をこえる
○母親たちが「失対」で一日働いても
300 円くらいにしかない
借りるのも大変 (利子が高い)

本当につらい!

「義務教育ちゅうのに、教科書くらいくれんもんか」
「そういえば、どっかに書いちよるきに」

憲法第二十六条

「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。」

「これだ、これだ」

教科書は政府が買いあたえることになっている

「長浜、教科書をタダにする会」(1961年《昭和36年》)結成

いよいよ「教科書をタダに」という要求を高知市教育委員会にもちこむ

「だれからも、うしろ指さされやせん運動じゃ」

「一番大事な憲法を守る運動ぞね」

いっそう盛り上がった

高知市議会も無償配布するよう内閣総理大臣や文部大臣に「意見書」を出している

教育委員会としてはなかなか態度を決めきれない



ついに、

新学期までに教科書を渡すと約束



ところが

新学期に入る直前に約束をホゴにしてしまう

教育委員も総辞職 市長も約束をホゴ



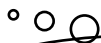
学校ではガリ版ずりの
プリントで授業



教科書を買える家の親

「そんなみっともないまねはやめ
ろ」「こんな運動は、部落のもの
することじゃ」

子どもたちもじっとしてはいなかった



みんなでがんばろうと言うたじゃないか」「びんぼうなう
ちの子は、どうなってもかまわんというのかや」

5月、プリントでの授業がはじまって一カ月、全校生徒のほぼ四分の一が無償になった。



要求はまだ満たされていないがこれ以上プリントでの授業は続けられない。



親も、子どもも、教師たちも涙をのんでこのたたかいを
うちきった

さすがに、国会でも大きな問題としてとりあげられた。文部省も1962年（昭和37年）ころから法律を出し、小・中学校の教科書を無償にすることを考えはじめた。



高知では翌年もたたかう。読み書きのできない母親たちもたたかってきた



1962年（昭和39年）から、ついに教科書無償が実現しはじめる

最初は小学校一年生、翌年は三年生までと、やがて小・中学校全体が無償になった。

4 学習展開

学習活動	指導及び支援の留意点				
<p>1 教科書無償の運動のあらすじをつかむ</p> <p>2 「教科書をタダにする会」の人々の気持ちを考える</p> <p>3 教科書無償のために闘った人たちの心情に迫る。</p>	<p>○別表のように、教科書無償運動とそれに関わった人々の様子をフローであらわし、運動の流れをとらえやすいようにする。</p> <p>○「教科書をタダにする会」のここまでの運動で、うまくいかなかったり、反対する人たちもいた事実を押さえる。そして、「どんな気持ちでたたかいをうちきったのか？」と問いかける。「涙をのんで」に着目させることで、うちきったつらさや悔しさに十分に共感させる</p> <p>○運動を打ち切った時の心情が明らかになったら、それでも運動を止めることなく翌年も闘ったことに着目させて課題を位置づける。</p>				
<p>(教育委員会や市長から約束をホゴにされのに)</p> <p>(「みっともないまねやめろ」と圧力をかけられたりしたのに)、</p> <p>課題：「教科書をタダにする会」が「教科書無償のたたかい」を続けたのはなぜか？</p>					
<p>【自己選択・決定①】</p> <p>自分の考えを持てるよう、ワークシート等を活用し記述させる。</p> <p>【自己存在感】</p> <p>個→グループ→全体 等の考えを出し合う、示す場を工夫する。</p> <p>【共感的関係】</p> <p>出た考えをもとに話し合う。考えを深める工夫として、課題に対する考えを以下の視点で分類する。</p>					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="193 1167 1369 1263" style="border: 1px solid black;"> <p>「要求はまだ満たされていない」に着目して</p> <p><A層：全部がタダになっていないから> ・やめるわけにはいかない・生活が苦しい</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1279 762 1570" style="border: 1px solid black; width: 50%;"> <p>「誰からも後ろ指さされん運動じゃ」に着目して</p> <p><B層：正しい運動をしているから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書無償は憲法に保障されている ・無償と書いているのに、そうになっていないのはおかしい </td> <td data-bbox="826 1279 1369 1570" style="border: 1px solid black; width: 50%;"> <p>「わしらは、新学期になっても、子どもに教科書を買いませんぜよ。」に着目して</p> <p><C層：子どもたちのことを考えて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を渡したい 勉強して欲しい ・子どもたちががんばっている ・これからの子どもに苦勞をかけたくない </td> </tr> </table>		<p>「要求はまだ満たされていない」に着目して</p> <p><A層：全部がタダになっていないから> ・やめるわけにはいかない・生活が苦しい</p>		<p>「誰からも後ろ指さされん運動じゃ」に着目して</p> <p><B層：正しい運動をしているから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書無償は憲法に保障されている ・無償と書いているのに、そうになっていないのはおかしい 	<p>「わしらは、新学期になっても、子どもに教科書を買いませんぜよ。」に着目して</p> <p><C層：子どもたちのことを考えて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を渡したい 勉強して欲しい ・子どもたちががんばっている ・これからの子どもに苦勞をかけたくない
<p>「要求はまだ満たされていない」に着目して</p> <p><A層：全部がタダになっていないから> ・やめるわけにはいかない・生活が苦しい</p>					
<p>「誰からも後ろ指さされん運動じゃ」に着目して</p> <p><B層：正しい運動をしているから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書無償は憲法に保障されている ・無償と書いているのに、そうになっていないのはおかしい 	<p>「わしらは、新学期になっても、子どもに教科書を買いませんぜよ。」に着目して</p> <p><C層：子どもたちのことを考えて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を渡したい 勉強して欲しい ・子どもたちががんばっている ・これからの子どもに苦勞をかけたくない 				
<p>4 まとめをする。</p>	<p>○出された意見をもとにまとめにつなげる。</p> <p>【自己選択・決定②】</p> <p>自分の考えと友達のことを比べて考えさせる。考えの変容や深まりを記述させる。</p>				
<p>まとめ (例)：「運動の正しさ」と「子どもへの思い」があったから闘い続けた。</p> <p>【補足】 この闘いがあったからこそ、現在の教科書無償につながったことを確認する...</p>					
<p>※「たたかってきたのは、一日一日の生活が苦しい母親たちが中心になっている。その背景を忘れてはならないのではないか」をキーワードに、これまでの自分をふり返らせる。</p>					

